

第4章 庭園に関する初期の文献

(仮訳)

‘And all was walled *that wone thouj it wid were* そしてそこは広いがすべてが壁で囲われ
With posterns in pryuytie to pasen when hem list 秘密の裏口を彼らが望むならそこから
Orchejardes and erberes eused well clene” 果樹園と庭園は大変美しく使われた
Pierce the Ploughman’s Crede, c.1394 ピアス 農夫の信条 1394年頃

ガーデニングの歴史についてさらに先に進む前に、今まで見てきた時代にまつわる関連文献についても振り返っておくことにしよう。サクソン時代、およびその後数世紀にわたるハーブと花に関する知識はすべて古典の著作家たちが教えてくれたものであった。テラフラストス Theophrastus [紀元前 372? ~286? 年 ギリシャ逍遥学派の哲学者・植物学者]、ディオスコリデス Dioscorides [40 頃 ~90 年 古代ローマの薬理学・薬草学の父]、ガレン Galen [130? ~199? 年 ギリシャの医学者]、プリニウス Pliny [23~79 年 ローマの博物学者]そしてアプレイウス Apuleius の著作により、サクソン人が持っていた植物に関する基礎的な知見が形作られた。アプレイウスの『植物誌』*Herbarium* はディオスコリデスとプリニウスの著作を基礎としており、そして主としてアプレイウス(紀元4世紀頃の人物)を通じてこれらの初期の著作家たちのことが知られることとなった。この植物誌はアングロサクソン語に翻訳されたが、この本がきっと大変人気が高かったに相違ないと思われるのは、この写本は少なくとも4冊存在しており、このような初期の時代の本などほとんど残っていない中で大きな割合を占めているからである*。

*これらの翻訳は次の文献の中に記されている。Cockayne による *Leechdom and Wortcunning of Early England* [初期イングランドの薬草および植物知識]、1864年、アール Earle による *Early-English Plant Names* [初期のイングランドの植物名] の中の注釈、1880年 - 写本の原本は大英博物館 Cotton Vitellius ciii、年代は1000-1066年頃。ケンブリッジ大学トリニティカレッジ、O. 2. 48、14世紀。また Harleian 815、*Liber Medicinalis* の中にも。(Harleian 5066, *Herbarium Saxonicum*. カタログの中にそのように記載されており、そのような番号が付されている写本の中ではなく、1804年にはそこにはなかったという注釈にDとサインされている。)

これらの写本に見られる植物の名前は大変興味深く、また後の時代の植物誌で使われる名前を特定する上で有用である。もう一つ役に立つアングロサクソン語で書かれた植物のリストは、アルフリック Ælfric [955~1020年 イングランドの大修道院長・文法学者] が書いた『文法』*Grammatica* の中で見つけることができる*。ここには当時知られていた普通のハーブのほとんどが網羅されており、対応するラテン語表記も記されている。ラテン語は常に正しく翻訳されていた訳ではなく、著者の知らない植物について、身近に生えている花の名前で代用されていることもある。

* *Vocabularies in a Library of National Antiquities*. Wright, 1857 年 写本 大英博物館 Cotton Julius

A ii

イングランドにおけるこのテーマに関する最も初期の著作家は教会関係者であった。すなわち、サイレンセスター大修道院長 Abbot of Cirencester のアレクサンダー・ネッカム Alexander Necham [1157 ~ 1217 年イングランドの神学者・学者 Neckam, Nequam と綴る] およびリンカーンのグローステスト Grosseteste 司教 イングランドの神学者・聖職者] であった。二人ともパリ大学で学び、このため海外における園芸の実情について自分自身の目で見られる機会に恵まれた。彼らの著作を見てもガーデニングに関してはたまたま触れられる程度であった。グローステスト† (1175 年誕生、1253 年没) はいろいろなテーマについて書いている。彼は医術に優れ、植物の持つ効能、性質に関する知識を持っていた。彼のものとされる著作は膨大であったため、すべてが彼自身のペンになるものとする可能性は極めて低いと思われるが、その名前を付するすべての著作は、死後 2 世紀以上にわたり読まれ、また参照され続けた。したがって農業に関する彼の著作は園芸にかなりの影響を与えたはずである。 パラディウス Palladius [Rutilius Taurus Aemilianus~, 4 世紀から 5 世紀前半の著作家 ガリア人] の『農業について』 *De Re Rustica* は、多分 5 世紀というかなり初期に書かれており、それは何世紀にもわたり、農業に関する英語のほぼすべての文献の基礎となり、グローステストのものを含めそのほとんどの文献は、この著作の単なる翻訳であったり翻案に過ぎなかったのである。『農業について』は 14 冊からなり、第 1 冊目は序言、次の 12 冊は順番に 1 年の各月に充てられ、第 14 冊目は接ぎ木に充てられている。様々な手法、たとえば種なしリンゴや種なしサクランボの栽培法などについて、その主張が正しいかどうかいちいち調べる手間なしに人々によって受け継がれた。そして、15 世紀になるとガーデニングは時代を通して盛んになり、何かもっと正確なことが書かれてもよかったであろうに、13 世紀の時と同じように 15 世紀になっても、彼らの主張は広く信じられていた。ウォルター・ドゥ・ヘンリー Walter de Henley [13 世紀イングランドの著作家] の『農業』 *Husbandry* の翻訳は、多分誤ってであろうが、グローステストの仕事とされている‡。原本は英語化されたノルマンフランス語で書かれていたが、この専門書は庭園よりも農場を主な対象としていた*。

† 参照 Sam Pegge, *Life of Robert Grosseteste* 1793 年 p. 308

‡ Sloane 写本 686 年 「農業に関する論文を書いたグロースデ Mayster Groshe [de] はリンカーン Lyncoll の司教で、彼はこの本をフランス語から英語に翻訳した」

* 何種類かの写本が存在している。参照 Cunningham 著 Introduction to Walter de Henley's *Husbandry*. Royal Historical Society, 1890 年

ネッカムはグローステストと同時代の人物であったが、より独創的な著作家であった。1157 年に生まれ、若い頃はセントオールバンズ St. Albans で過ごし、ダンスタブル Dunstable の大修道院付属の学校の校長に任命され、1180 年までパリ大学の特別教授を務め、1186 年にダンスタブルに帰って来た。しかし、セントオールバンのベネディクト派

を離れてすぐサイレンセスターのアウグスト派に参加し、1213年にはその大修道院長に選ばれ、1217年に没した。ネッカムの『称賛すべき神の知恵について』“De laudibus divinae Sapientiae”は、10部からなる詩で、様々な花や果物を称えるために多くの行が割かれている。7番目の本は、ハーブの素晴らしさについて書かれており、その中には、ベトニー〔カウコウチョロギ〕betony、セントリー〔シマセンブリ〕centaury、セイヨウオオバコ plantain、ワームウッド〔ニガヨモギ〕wormwoodなどが含まれる。8番目は果物についてであり、サクランボ、桃、セイヨウカリンなどなどである。彼は、イングランドの生産物を称賛することに止まらず、彼自身自然の状態では多分見たこともないような、テレピンノキ〔ウルシ科〕terebinth、シナモン、香辛料、果物について称えているのである。同様に、彼の別の著作である『諸物の性質について』*De Naturis Rerum* [*On the Nature of Things*] における「高貴な庭園」はどうあるべきか、との記述は、想像上の産物であり、なぜなら、この国、いやヨーロッパにおいてすら野外で栽培するにはとても不向きと思われる多くの植物が、庭園にはどのような植物が植えられるべきか、というこのリストに含まれているからである。このことが簡単に説明できるのは、同時代のほかの人と同じように、ネッカムが古典の作家たちから好きなように引用しているからである。彼が書いたところによると†「庭園はバラ、ユリ、ターンソール〔トウダイグサ科〕turnsole、スマレ、マンドレイク〔マンドラゴラ；ナス科の有毒植物〕mandrake で飾られるべきである。そこにはパセリ、コストcost、フェネル、サザンウッド、コリアンダー、セージ、セイボリー〔キダチハッカ〕savory、ヒソップ、ミント、ルー〔ヘンルーダ〕、ディタニー〔シソ科〕dittany、(野生の)セロリ、ペリトリー〔ヨーロッパヒカゲミズ；イラクサ科〕pellitory、レタス、コショウソウ garden cress、シャクヤク、カボチャが植えられるべきである。またタマネギ、ネギ、ニンニク、カボチャ、ワケギが植えられた畝も作られなければならないし、キュウリ、ポピー、ラップスイセン、アカンサス〔ハナアザミ〕acanthus の多年草がないと良い庭園とは言えない。そしてビーツ〔サトウダイコン〕ハーブマーキュリー〔ヤマアイ〕herb mercury、オラック〔ヤマホウレンソウ〕orach、ソーレル〔ギシギシ〕sorrel、マロー〔ウスベニアオイ〕mallowなどのスープ用のハーブも必要である。」

†植物の名前の翻訳はWright編のNechamの著作から引用したものである。

さて、ここまでは、サイレンセスターの彼の庭園、あるいは当時あったほかのかなり大きな庭園の中で見られたであろう単なるカタログであることは明らかである。しかし、「セイヨウカリン、マルメロ、ウォーデン梨、桃、St.Regulaの梨」のほかに、オレンジ、レモン、ザクロ、ミルラ myrrh などの果物、各種香料、その他信じられない植物が加えられているのである。

時代ははっきりしないが、もう一人、古典の作家としてメイサーMacer [Floridus, 1100年代に活躍 *De viribus herbarum* の著者] がいる。ウェルギリウスと同時代に同じ名前の人がい

るが、多くの言語に翻訳された植物誌の著者は、ガレン Galen を引用しているところから、もう少し後の時代の人ではないかと思われる。この本はハーブと香辛料を薬用として使う場合のハーブの取り扱いに限って書かれたものである。昔の翻訳が貴重なのは、ラテン語名に対応する英語名がわかるからで、メイサーの本は、ハーブ庭園を作ろうとする人なら誰でも、当時イングランドで見つけることができる、そこに書いてある植物をできるだけ多く集めようとしたほど、広く使われたハンドブックであった。メイサーの本の最初の翻訳者の名前は、今ではぼんやりとしてわからなくなっているが、ハートフォード校長の John Lelamour の手になる写本の翻訳（1373年）が残されており（* Sloane, No.5 Sec.3）またほかにもいくつか初期の翻訳が存在している。なお、この本自体は1530年頃まで活字にされてこなかった。これらのうち一つの写本は変わっていて、メイサーが書いていないのに、翻訳者あるいは転写した人が知っているということで、いくつかの植物を付け加えていることである（†1440年頃の写本、デイドゥリントン図書館蔵）。さらにメイサーは医学的な処方箋をあわせて書き加えており、それはハーブ園に通常植えられる植物の範疇を超えて書き記したものであった。次の例は伝染病を治療するための処方箋である： - 「ルリハコベ pimpermoll、セージ、ダイコンソウ、セント・マリーゴールド[キンセンカ] タンジー[ヨモギギク] ソーレル[ギシギシ]とセイヨウオダマキを用意し、ブレンドして、これらの7種のハーブをすりつぶして、その汁 iouise をエール ole ale またはきれいな水に入れて飲む、そうすれば伝染病に打ち勝つであろう」

庭園に関する追加的な情報はその他の医学書から知ることができる。ストックホルムの王立図書館の写本に保存されている英語で書かれた14世紀の医学関係の詩には、花を図解したものが描かれている。品質の良いローズマリーに関して著者は次のように言う： - 「ローズマリーはハーブであるとともに木であり、暑さや乾燥に強い種で、その葉は常に緑で、医術の優れた本にあるように欠点はまったくなく、そして Sallerne の学者が書いた本がエノ 伯爵夫人に送られ、彼女は娘であるイングランドの女王フィリッパにその写しを送った」（*Archæologia 第30巻）。これは、もちろん、エドワード3世の王妃、フィリッパ・オブ・エノ Philippa of Hainault [1314~69年 父は（現ベルギー領）エノ 伯ギヨーム1世、母はフランス王フィリップ6世の妹ジャンヌ・ドヴァロア] のことであり、大英博物館（†Sloane, No.7 Sec.5）に次のような題がついた写本があることは興味深い： - 「Chiburn ローズマリーの美点について エノ 伯爵夫人の命令により書かれたもので、娘であるイングランドの女王フィリッパにその写しを送った」

[訳注：イングランドに初めてローズマリーを送ったのがエノ伯爵夫人と言われ、それまでイングランドではローズマリーは知られていなかった]

別の医学書としては、「尊敬すべき医師、ギルバート・カイマー先生」Master Gilbert Kymer によるもので、グロスター公爵ハンフリー[1391~1447年]に宛てた論文であり、『健康管理のための食事』*Dietarium de Sanitatis Custodia* というタイトルが付けられている。カイマーは、公爵がスープに入れて安全に食べることができるハーブのリスト、および果物

についての詳細な指示、すなわちどのような果物を食前に食べたらいいか、食後に食べたらいかが書かれている。このリストには、最も身近な果物のほか、ダムソン [インシチチア スモモ；ダマスカスのスモモ] damsons、イチゴ、イチジク、セイヨウカリン、桃そして外国の果物や香料が掲げられている。植物の名前がそれぞれラテン語、英語、フランス語で書かれたリストがジョン・ブレイ John Bray によって作成された。ブレイは医師であるとともに植物学者であり、ソールズベリー伯爵ウィリアムから毎年 100 シリングの手当を受け取り、後にリチャード 2 世から受け取った。彼の著作『植物の名前一覧』*Synonomā de nominibus herbarum* († Sloane 写本、282 (24)、167 v. ページ~173 v. ページ) にはアルファベット順に並べられた名前が数多く納められている。

パラディウスについては、13 世紀に翻訳されていたのと同じくらいたくさん 15 世紀にも翻訳されていたことがわかっている。英語版については、1420 年頃の写本がコルチェスター Colchester (§ E. Eng. Text Soc. 発行、T. H. Herrtage 編) に存在しているが、その著者が誰であるかの手掛かりはない。しかし、同時期の別の翻訳者の名前と業績は残されている。それはウェストミンスター修道士であるニコラス・ボラード Nicholas Bollard と言い、パラディウスの接ぎ木、植栽、種蒔きに関連する農業関係の著作の一部を、彼自身が直接翻訳したか、あるいは翻案したか、または「ゴッドフリー」Godfrey を通じて翻訳した。ロバート・サル Robert Salle も同じ本の一部を再発刊している。(† サルの著作を掲載している大英博物館が所蔵する写本は次のように結ばれている。「ここに paladie に関するゴッドフリーによる樹木の話は終え、Nicholas Bollard の論文を始めることとする。」そして「木の植栽方法」と接ぎ木に関する章が続き、その末尾には「ここに農業に関する Paladie に関するゴッドフリーの最初の部分の章を閉じる」と記されている)。もう一つ別の、ポーキントン論文 Porkington Treatise として知られる 15 世紀の写本は、木の接ぎ木と植栽に数ページが割かれており、その内容は、若干の追加があるほかは、既に引用したものとほぼ同じものとなっている。著者は種なしの果物の育て方をはじめもろもろの一般的な手法すべてについて書き表しているが、加えて、サクランボの木へのブドウ、赤バラの接ぎ木の仕方について語り、また「木の根の近くに」穴を開けて、「Almayne を確実に」差し込むことによって果物の色を青色にする仕方について語っている。あわせて、「もし自分のハーブ園に多くのバラが咲くことを望むなら」ローズヒップ(彼は“pepynes”と呼ぶが)は 2 月か 3 月に種を蒔いて「十分に水で湿らせる」べきと言っている(*Porkington 写本、W. Ormsby Gore 所蔵。1855 年 Warton Club 発行、本のタイトルは Early English Miscellanies、英国学士院会員 G.O. Halliwell 他編)。

ガーデニングに関して、英語で書かれたこれこそオリジナルなものとして知られる最も初期の著作は、「イオン・ガードナー」Mayster Ion Gardener なる人物による詩句で書かれた論文で、そのユニークな写本がケンブリッジ大学のトリニティカレッジの図書館に現存している († *Archæologia* 第 54 巻所収、私自身による用語集付き)。

ayntys saucy tucuse & hyngre
letulle calamynto anan & bouye
ffynel solblyrmlode wawmot & rydwort
herbe for herbe kober herbelbra & wallwort
hertystongy poly pody parcoll & asery
ffromel woderose hyndefalt & betony
flady u balerym stabras & spereborde
berneynd wodefom wlat hylly & lyaorllarte
aynsay eg moyne gonyfote & bygnull
centory horsel addeystong & bygnull
henbane camemyl wyldestyl & styafellort
wey bnde gwyllystly elyfanlode & byfllor
ayroy lampndull radyfste fanyde & fenyng
pnynt violot calyshypp & and hylly
Carfpyndyllyo stwalberp & and nuderwort
lanychese totelayne tansy & feldallort
Oey neyto horegollind & flos campy
ffodoff vedemay p moyle & cooly
foly rye rafe lopyte fowdono & pnyngoldy
holp harte corykibnder pnyng & f woldy
All thyse herbye by seynt aynguell
Wold be sette yn the month of Anouell
ffurter moyn wyl y noyt go
znt hys of herbye wyl y go

Of the fynde of Caserollne
Of Caserollne we mote tolls
he seyal be kepte forre & well
Caserollne wyl hys wylt lassyng
add go y made wel wylt dyng
ffor sette of thyse seyal bere
yn wold be sette yn y month of September
t 900 daye by for seynt mayday u tnyngte
or gette next wote y after sy mote y the
w t a d d d d y seyal cam sette
t hat sy d d d d of seye be d d d d y mote
t 900 pnyng d d d d they most sette be
And thyse fynde may be sette you quered to me

Explicit hic liber qui vocatur
De arte horti sive de re herbaria
Iohannis Gardenerii

THE FEATE OF GARDENING BY ION GARDENER, MS. C. 1440, TRINITY COLLEGE, CAMBRIDGE.

[図 4-1] 『ガーデニングの偉業』 イオン・ガードナー著 写本 1440年頃
トリニティカレッジ ケンブリッジ

それは、様々な写本からなる小さな本の中に納められており、1738年にロジャー・ゲール Roger Gale によりカレッジに寄贈されたものである。この写本は一見したところ 1440 年頃に書かれたもののようであるが、詩句は多分もっと早い時期のものであろう。言語的な考証を踏まえれば、著者はケント人であったと思われるが、写本の作業をした人のミスにより、執筆した時点ではすでに使われなくなりつつあった単語のいくつかについて著者が知らなかったように外目には見える。今残っているタイトル、『ガーデニングの偉業』 The Feate of Gardening は明らかに後世の人により付け加えられたものである。この詩句の作者については確実なことは何もわかっていない。彼は専門的な庭師であったかも知れないし、あるいは単にその職業のシンボルとして、ラングランドがピアス・プラウマン [農夫] という名前を書いたのとちょうど同じように、そのような名前 [ガードナー、庭師] を名乗ったのかも知れない。ジョンという名は当時の庭師の間で極めてよく見られるクリスチャンネームだということははっきりしている。この論文は初期の作家たちの先を行く大きな一歩であった。それは完璧なまでに実用的であったから、そこに記されている処方については成功した実例として今日においても従ってこられてきたのであろう。そして当時広く流布していた迷信によって惑わされることなく、架空の処方とはまったく無縁なものであった。この詩句は 196 行から成り、序詩から始まり次のような標題の 8 部から構成されている： - 「木の植付けと養生 Reryng について」 - 「木の接ぎ木について」 - 「ブドウの剪定と植付けについて」 - 「種の苗床づくり settyng と種蒔きについて」 - 「野菜等の種蒔きと植付けについて」 - 「パセリの種類について」 - 「その他の種類のハーブについて」 - 「サフランの種類について」。この著作が貴重なのはイングランドの庭園に実際に植えられていた植物やその育て方について議論の余地のない証拠を示しているとともに、当然のことながら、ほかのいかなる翻訳物よりもこのテーマに関して限りなく信じるに足る価値を持っているからである。この点に関し、このほかに唯一入手可能な情報源としては、初期の料理本があり、その中には庭園にふさわしいハーブが列挙されている。ジョン・ガードナーの詩句に出てくる植物のリストは以下のとおりである： -

『ガーデニングの偉業』に掲載されている植物

Plants from “The Feate of Gardening.”

[訳注：和名は学名から同定できるものを採用。例えばボリジなどのハーブのように、和名として一般化している植物はその名称を優先。複数考えられる場合は / で表記、英名が or の場合は和名も or で表記。また、和名が存在しないものは英国王立園芸協会 RHS の英語名や日本のハーブ関係書籍（北野佐久子編「基本ハーブ事典」、マーガレット・B・フリーマン著 遠山茂樹訳「西洋中世ハーブ事典」、ジャパンハーブソサエティー著「ハーブのすべてがわかる事典」、副島顕子著「Plant Dictionary 植物名の英語辞典」）等を参考にして表記。この部分および以下本章の植物名については都市緑化機構 野良明専務理事による。なお、植物名に見られる ll は小文字の l が重なる時に横棒で繋ぐ中世英語の表記法；ケンブリッジ大学出版会復刻の電子版は tt となっているがこの表記は誤解を招きやすい]

Adderstong (<i>Ophioglossum</i>)	ハナヤスリ〔シダ植物 ハナヤスリ科〕
Affodyth (<i>Narcissus Pseudo-narcissus</i>)	ラッパスイセン〔ヒガンバナ科〕
Auans (<i>Geum urbanum</i>)	セイヨウダイコンソウ〔バラ科〕
Appyl (<i>Pyrus Malus</i>)	リンゴ〔 <i>Malus pumila</i> バラ科〕
Asche tre (<i>Fraxinus excelsior</i>)	セイヨウトネリコ〔モクセイ科〕
Betony (<i>Stachys Betonica</i>)	ベトニー〔カッコウチョロギ シソ科イヌゴマ属〕
Borage (<i>Borrago officinalis</i>)	ボリジ〔ルリジシャ ムラサキ科〕
Bryswort (<i>Bellis perennis</i>)	ヒナギク〔キク科〕
Bugull (<i>Ajuga reptans</i>)	アジュガ〔セイヨウキランソウ シソ科〕
Bygull (<i>Chrysanthemum segetum</i>)	クリサンセマムセグタム〔コーンマリーゴールド キク科〕
Calamynte (<i>Calamintha officinalis</i>)	カラミント〔シソ科〕
Camemyl (<i>Anthemis nobilis</i>)	カモミール〔キク科〕
Carsyndylls (<i>cress, and lily</i> ?)	カラシナ〔アブラナ科〕とユリ？
Centory (<i>Centaurea nigra, or Erythraea Centaurium</i> ?)	ナップウィード〔ヤグルマギクの種類 キク科〕or セントリー〔シマセンブリ リンドウ科 現学名 <i>Centaureum erythraea</i> 〕？
Clarey (<i>Salvia Sclarea</i>)	クラリーセージ〔オニサルビア シソ科〕
Comfery (<i>Symphytum officinale</i>)	コンフリー〔ヒレハリソウ ムラサキ科〕
Coryawnder (<i>Coriandrum sativum</i>)	コリアンダー〔セリ科〕
Cowslippe (<i>Primula veris</i>)	カウスリップ〔キバナノクリンザクラ サクラソウ科〕
Dytawnder (<i>Lepidium latifolium</i>)	ベンケイナズナ〔アブラナ科〕
Egrimoyne (<i>Agrimonia Eupatoria</i>)	アグリモニー〔セイヨウキンミズヒキ バラ科〕
Elysauwder (<i>Smyrniun Olusatrum</i>)	アレクサンダース〔セリ科〕
Feldwort (<i>Gentiana</i>)	ゲンチアナ〔リンドウ科〕
Floscampi (<i>Lychnis</i>)	リクニス〔ナデシコ科センノウ属〕
Foxglove (<i>Digitalis purpurea</i>)	ジギタリス/フォックスグローブ〔ゴマノハグサ科〕
Fynel (<i>Foeniculum vulgare</i>)	フェンネル〔ウイキョウ セリ科〕
Garleke (<i>Allium sativum</i>)	ニンニク〔ヒガンバナ科〕
Gladyn (<i>Iris</i>)	グラディンアイリス〔ミナリアヤメ アヤ

Gromel (<i>Lithospermum officinale</i>)	メ科]
Growdyswyly (<i>Senecio vulgaris</i>)	セイヨウムラサキ〔ムラサキ科〕
Halsel tre (<i>Corylus Avellena</i>)	ノボロギク〔キク科〕
Herbe Robert (<i>Geranium Robertianum</i>)	セイヨウハシバミ〔カバノキ科〕の木
Herbe Ion (<i>Hypericum perforatum</i>)	ハープロバート〔ヒメフウロ フウロソウ科〕
Henbane (<i>Hyoscyamus niger</i>)	セイヨウオトギリソウ〔オトギリソウ科〕
Hawthorn (<i>Crataegus Oxyacantha</i>)	ヘンベーン〔ヒヨス ナス科〕
Herbe Walter (cannot identify)	サンザシ〔バラ科〕
	*ハーブルター (何を指すか特定できない)

* Herbe Water と綴られ、それは Walter と同じである(ヘンリー6世第2部、第4幕第1場参照[訳注])。この名前は *Aggregator Practicus al Simplicibus* の中の写本のノートにも出てくるし、またハープロバート、ハーブイオンとともに15世紀の *Scientific Commonplace Book* [科学常識の菜] の写本(G. Henslow 師所蔵)にも出てくる。また、John Bray の植物のリスト、Sloane 282(24)では *Herba Walteri* Herbe Water と書かれている。これらのすべての写本にはジョン・ガードナーの詩および1201年の Sloane 写本に出てくる植物のうちの多くの名前が掲載されている。

[訳注] Folger Shakespeare Library の注釈によると、エリザベス朝時代の発音では l は発音されなかったため、Walter は water のように聞こえた。

Hertystonge (<i>Scolopendrium vulgare</i>)	オオエゾデングダ〔シダ植物 ウラボシ科〕
Holyhocke (<i>Althæa rosea</i>)	ホリホック〔タチアオイ アオイ科〕
Honysoke (<i>Lonicera Periclymenum</i>)	ハニーサックル〔ニオイスイカズラ スイカズラ科〕
Horehound (<i>Marrubium vulgare</i>)	ホアハウンド〔ニガハッカ シソ科〕
Horsel (<i>Inula Helenium</i>)	エレカンペーン〔オオグルマ キク科〕
Hyndesall (? " <i>Ambrosia.</i> " <i>Teucrium scorodonia</i> ?)	? <i>Ambrosia</i> は「キク科ブタクサ属」、 <i>Teucrium scorodonia</i> はウッドセージ〔シソ科〕?
Langbefe (<i>Helminthia echioides</i> [or] <i>Echium vulgare</i>)	ハリゲコウゾリナ〔キク科〕[or : 別種の植物のため加筆]シベナガムラサキ〔ムラサキ科〕
Lavyndull (<i>Lavandula vera</i>)	ラベンダー〔シソ科〕
Leke (<i>Allium Porrum</i>)	リーキ〔セイヨウネギ ヒガンバナ科〕
Letows (<i>Lactuca sativa</i>)	レタス〔チシャ キク科〕
Lyly (<i>Lilium candidum</i>)	マドンナリリー〔ユリ科〕
Lyverwort (<i>Anemone Hepatica</i>)	ミスミソウノユキワリソウ〔キンポウゲ科〕

Merege (<i>Apium graveolens</i>)	セロリ〔セリ科〕
Moderwort (<i>Artemisia vulgaris</i>)	マグワート〔オウシュウヨモギ キク科〕
Mouseer (<i>Hieracium Pilosella</i>)	マウスイアー・ホークウィード〔ハイコウ リントンポポ キク科ヤナギタンポポ属〕
Myntys (<i>Mentha</i>)	ミント類〔シソ科〕
Nepte (<i>Nepeta Cataria, or a turnip</i>)	キャットニップ〔イヌハッカ シソ科〕 or カブ〔アブラナ科〕
Oculus Christi (<i>Salvia Verbanaca</i>)	ミナトタムラソウ〔シソ科サルビア属〕
Orage (<i>Atriplex hortensis</i>)	オラック〔ヤマハウレンソウ アカザ科ハ マアカザ属〕
Orpy (<i>SedumTelephium</i>)	ムラサキベンケイソウ〔ベンケイソウ科〕
Ownyns and Oynet (<i>Allium Cepa</i>)	タマネギ〔ヒガンバナ科〕
Parrow (<i>mistake for Yarrow</i>)	ヤロウ〔セイヨウノコギリソウ キク科〕 の間違い
Pelyter (<i>Parietaria officinalis</i>)	ペリトリーオブザウォール〔ヨーロッパハ カゲミズ イラクサ科〕
Percely (<i>Petroselinum sativum</i>)	パセリ〔セリ科〕
Pere (<i>Pyrus communis garden varieties</i>)	セイヨウナシ〔バラ科〕
Peruyinke (<i>Vinca major & minor</i>)	ツルニチニチソウ〔キョウチクトウ科〕と ヒメツルニチニチソウ〔キョウチクトウ 科〕
Primrole (<i>Primula vulgaris</i>)	プリムローズ〔イチゲサクラソウ サクラ ソウ科〕
Polypody (<i>Polypodium vulgare</i>)	ポリポディ〔オオエゾデンダ ウラボシ 科〕
Pympernold (<i>Poterium Sanguisorba</i>)	サラダバーネット〔オランダワレモコウ バラ科〕
Radysche (<i>Raphanus sativus</i>)	ダイコン〔アブラナ科〕
Redenay (Red Ray <i>Lolium perenne</i>)	ペレニアルライグラス〔ホソムギ イネ 科〕
Rewe (<i>Ruta graveolens</i>)	ルーノヘンルーダ〔ミカン科〕
Rose (<i>Rosa, red and white</i>)	バラ 赤と白
Rybwort(<i>Plantago lanceolata</i>)	ヘラオオバコ〔オオバコ科〕
Saferowne (<i>Crocus sativus</i>)	サフラン〔アヤメ科〕
Sage (<i>Salvia officinalis</i>)	セージ〔シソ科〕
Sanycle (<i>Sanicula europæa</i>)	サニクル〔ウマノミツバの一種 セリ科〕

Sauerey(<i>Satureja hortensis</i>)	サマーセイボリー〔キダチハッカ シソ科〕
Scabyas (<i>Scabiosa</i>)	マツムシソウ〔マツムシソウ科〕
Seueny (<i>Brassica alba</i>)	ホワイトマスタード〔シロガラシ アブラナ科〕
Sowthrynwode (<i>Artemisia Abrotanum</i>)	サザンウッド〔キダチヨモギ or オキナヨモギ キク科〕
Sperewort(<i>Ranunculus Flammula</i>)	マツバキンポウゲ〔キンポウゲ科〕
Spynage(<i>Spinacia oleracea</i>)	ハウレンソウ〔アカザ科〕
Strowberys (<i>Fragaria vesca</i>)	イチゴ〔バラ科〕
Stychewort (<i>Stellaria Holostea</i>)	アワユキハコベ〔ナデシコ科〕
Tansay(<i>Tanacetum vulgare</i>)	タンジー〔ヨモギギク キク科〕
Totesayne (<i>Hypericum Androsæmum</i>)	タッツアン tutsan(コボウズオトギリ オトギリソウ科)
Tuncarse (<i>Lepidium sativum</i>)	ガーデンクレス〔コショウソウ アブラナ科〕
Tyme(<i>Thymus Serpyllum</i>)	クリーピングタイム〔シソ科〕
Valeryan(<i>Valeriana officinalis</i>)	ヴァレリアン〔セイヨウカノコソウ オミナエシ科〕
Verueyn (<i>Verbena officinalis</i>)	バーベイン〔クマツヅラ クマツヅラ科〕
Violet (<i>Viola odorata</i>)	ニオイスマレ〔スマレ科〕
Vynys and Vyne tre (<i>Vitis vinifera</i>)	ブドウ、ブドウの木〔ブドウ科〕
Walwort(<i>Sedum acre</i>)	オウシュウマンネングサ〔ベンケイソウ科〕
Warmot (<i>Artemisia Absinthum</i>)	ワームウッド〔ニガヨモギ キク科〕
Waterlyly (<i>Nymphæa alba</i> or <i>Nuphar luteum</i>)	白スイレン〔スイレン科〕
Weybrede (<i>Plantago major</i>)	セイヨウオオバコ〔オオバコ科〕
Woderofe(<i>Asperula odorata</i>)	クルマバソウ〔アカネ科〕
Wodesour(<i>Oxalis Acetosella</i>)	コミヤマカタバミ〔カタバミ科〕
Wurtys or Wortys (<i>Brassica oleracea</i>)	ヤセイカンラン〔アブラナ科〕
Wyldtesyl (<i>Dipsacus Fullonum</i> , or <i>sylvestris</i>)	チーゼル〔オニナベナ スイカズラ科 学名の種小名は両方使用〕
Ysope (<i>Hyssopus officinalis</i>)	ヒソップ〔ヤナギハッカ シソ科〕

料理本の最初に掲載されているハーブのリスト、15世紀 Sloane 写本 1201年

庭園に必要なハーブ アルファベット順

Herbys necessary for a gardyn by letter

[訳注：学名が表記されているものは、上記同様学名から同定。学名の表記がないものは、推定できるもののみ和名掲載]

A.

Alysaundre (<i>Smyrniun Olusatrum</i>)	アレクサンダース〔セリ科〕
Avence	セイヨウダイコンソウ〔バラ科〕
Astralogia rotunda (<i>Aristolochia</i>)	ウマノスズクサの一種〔ウマノスズクサ科〕
Astralogia longa	ウマノスズクサの一種?〔ウマノスズクサ科〕
AHa	〔和名未同定〕

[訳注：Alia をニンニクと解している書籍もある (西洋中世ハーブ事典 マーガレット・B・フリーマン 著 遠山茂樹訳)]

Arcachaff(<i>Angelica</i> ?)	アンジェリカ?〔セイヨウトウキ セリ科 シシウド属〕
Artemesie mogwede	マグワート〔オウシュウヨモギ キク科〕
Annes (<i>Pimpinella Anisum</i>)	アニス〔セリ科ミツバグサ属〕
Archangel (<i>Lamium album</i>)	オドリコソウ〔シソ科〕

B.

Borage	ボリジ〔ルリジシャ ムラサキ科〕
Betes (<i>Beta vulgaris</i>)	ビート/フダンソウ〔ヒユ科〕
Betyñ	ベトニー〔カッコウチョロギ シソ科イヌゴマ属〕
Basilicañ (<i>Ocimum basilicum</i>)	バジル〔シソ科〕
Bungle	セイヨウキランソウ〔アジュガ シソ科〕
Burneti	バーネット〔ワレモコウ バラ科〕

C.

Cabage	キャベツ〔アブラナ科〕
CherveH	チャービル〔セリ科〕
Carewey	キャラウェイ (ヒメウイキョウ セリ科)
Cyves	チャイブス〔セイヨウアサツキ ヒガンバ〕

Columbyn	ナ科) コロンバイン〔セイヨウオダマキ キンポウゲ科〕
Clarey	クラリーセージ〔オニサルビア シソ科〕
Colyaundr'	コリアンダー〔セリ科〕
Colewort	コールウォート、コール〔キャベツ類の葉〕
Cartabus	〔和名未同定〕
Cressez	クレソン〔カラシナ アブラナ科〕
Cressez of Boleyn	〔和名未同定〕
Calamynte	カラミント〔シソ科〕
Camamyth	カモミール〔キク科〕
Ceterwort〔? <i>Ceterach officinarum</i> 〕	?チャセンシダ類〔シダ植物 チャセンシダ科〕
D.	
Daysez	デイジー〔ヒナギク キク科〕
Dytayñ	ディタニー〔シソ科〕
Daundelyoñ	セイヨウタンポポ〔キク科〕
Dragaunce (<i>Arum Dracunculus</i>)	ドラゴンアルム〔サトイモ科〕
Dylle	ディル〔イノンド セリ科〕
E.	
Elena campana (<i>Inuia Helenium</i>)	エレカンペイン〔オオグルマ シソ科〕
Euftras (<i>Euphrasia officinalis</i>)	アイブライト〔ユーフラジア、ヤクヨウコゴメグサ ゴマノハグサ科〕
Egrymoyñ	アグリモニー〔セイヨウキンミズヒキ バラ科〕
F.	
Feneht	フェンネル〔ウイキョウ セリ科〕
Foothistell	〔和名未同定〕
Fenecreke (<i>Trigonella Foenum-græcum</i>)	フェヌグリーク〔コロハ マメ科〕
G.	
Grometh	〔和名未同定〕
Goldez (<i>Calendula officinalis</i>)	キンセンカ〔キク科〕

Gyllofr' (<i>Dianthus Caryophyllus</i>)	クローブピンク〔オランダナデシコ ナデシコ科〕
Germaundr'	ウォールジャーマンダー〔シソ科ニガクサ属〕
H.	
Hertez tonge	オオエゾデンダ〔シダ植物 ウラボシ科〕
Horehound	ホアハウンド〔ニガハッカ シソ科〕
Henbane	ヘンベーン〔ヒヨス ナス科〕
I.	
Isope	ヒソップ〔ヤナギハッカ シソ科〕
Iertin	〔和名未同定〕
Iryngez (<i>Eryngoes</i> ?)	エリンジウム?〔ヒゴタイサイコ セリ科〕
herbe Ive (<i>Plantago</i>)	オオバコ類〔オオバコ科〕
K.	
Kykombre, yt. bereth apples (<i>Cucumis sativus</i>)	キュウリ〔ウリ科〕
L.	
Longdebeff	ハリゲコウゾリナ〔キク科〕[or]シベナ ガムラサキ〔ムラサキ科〕
Lekez	リーキ〔セイヨウネギ ヒガンバナ科〕
Letuce	レタス〔チシャ キク科〕
Love ache (<i>Levisticum officinale</i>)	ラベージ〔セリ科〕
Lympons	〔和名未同定〕
Lylle (<i>Lilium</i>)	ユリ
Longwortz (<i>Pulmonaria officinalis</i>)	ラングワート〔プルモナリア ムラサキ科〕
M.	
Mercury	ヤマアイ〔トウダイグサ科〕

Malowes	マロー〔ウスベニアオイ アオイ科〕
Mynt	ミント類〔シソ科〕
Mageroñ	マジヨラム〔ハナハッカ属 オレガノ近 似種 シソ科〕
Mageroñ gentye	マジヨラムの一種
Mandrake	マンドレイク〔マンドラゴラ ナス科〕
Mylons	メロン〔ウリ科〕
N.	
Nept	キャットニップ〔イヌハッカ シソ科〕 ノカブ〔アブラナ科〕
Nettel rede	ネトル〔イラクサ イラクサ科〕ノレッ ドネトル〔ヒメオドリコソウ シソ科〕
Nardus capistola	〔イネ科 <i>Nardus</i> 属〕
O.	
Orage	オラック〔アカザ科ハマアカザ属〕
Oculus Christi	ミナトタムラソウ〔シソ科サルビア属〕
Oynons	タマネギ〔ヒガンバナ科〕
P.	
Persely	パセリ〔セリ科〕
Pelytor	ペリトリーオブザウォール〔ヨーロッパ ヒカゲミズ イラクサ科〕
Pelytor of Spayñ,	スパニッシュカモミール〔 <i>Anacyclus</i> <i>pyrethrum</i> キク科〕
Puliañ royañ (<i>Mentha Pulegium</i>)	ペニーロイヤルミント〔メグサハッカ シソ科〕
Pyper white	コショウ(白)〔コショウ科〕
Pacyence (<i>Rumex patentia</i>)	パティエンスドック〔タデ科ギシギシの 一種〕
Popy whit'	ポピー(白)〔ケシ科〕
Prymerose	プリムローズ〔イチゲサクラソウ サク ラソウ科〕
Purselane	スベリヒユの一種〔スベリヒユ科〕
Philipendula	シモツケソウ属〔バラ科〕

Q.

Qvyncez	マルメロ〔バラ科〕
R.Rapes (<i>Brassica Napus</i>)	セイヨウアブラナ〔アブラナ科〕
Radyche	ダイコン〔アブラナ科〕
Rampsons (<i>Allium ursinum</i>)	ラムソン〔クマニラ ヒガンバナ科〕
Rapouncez (<i>Campanula Rapunculus</i>)	ランピオン〔キキョウ科ホタルブクロ属〕
Rokette (<i>Hesperis matronalis</i>)	ダムズバイオレット〔ハナダイコン アブラナ科〕
[訳注:「ロケット」はルッコラを指すことがあるが、ここでは学名を優先し、ダムズバイオレットとした。]	
Rewe	ルー〔ヘンルーダ ミカン科〕

S.

Sauge	セージ〔シソ科〕
Saverey	サマーセイボリー〔キダチハッカ シソ科〕
Spynache	ハウレンソウ〔アカザ科〕
Sede-wale (<i>Valeriana pyrenaica</i>)	バレリアン〔カノコソウの一種 capon's tail grass オミナエシ科〕
Scalaceh (? <i>Sinapis arvensis</i>)	?ノハラガラシ charlock〔アブラナ科〕
Smalache (<i>Apium graveolens</i>)	セルリ〔セリ科〕
Sauce alone (<i>Erysimum Alliaria</i>)	ニンニクガラシ〔ガーリックマスタードアブラナ科〕
Selbestryne	〔和名未同定〕
Syves (<i>Allium Schoenoprasum</i>)	チャイブ〔セイヨウアサツキ ヒガンバナ科〕
SoreH	ソーレル〔ギシギシ (<i>Rumex acetosa</i>) タデ科〕
SowthistH	ケシアザミ〔ノゲシの一種 キク科〕
Skabiose	マツムシソウ〔マツムシソウ科〕
Selia	セリナム〔パセリの一種 selinum セリ科〕
Stycadose (<i>Lavandula Stæchas</i>)	ラベンダー・ストエカス〔シソ科〕

Stanmarch (? *Smyrniolum Olusatrum*) ?アレクサンダース〔学名は *Alysaundre*
(A.の項 前掲) と同じ。セリ科]

T.

Tyme タイム〔シソ科〕
Tansey タンジー〔ヨモギギク キク科〕

V.

Vyolette ニオイスミレ〔スミレ科〕
Wermode ワームウッド〔ニガヨモギ キク科〕
Wormesede (*Erysimum cheiranthoides*) エソズシロ〔treacle mustard アブラ
ナ科〕
Verveyñ バーベイン〔クマツヅラ クマツヅラ
科〕

これらのうちスープ用のハーブについて

Of the same Herbes for Potage

Borage ボリジ〔ルリジシャ ムラサキ科〕
Langdebefe ハリゲコウゾリナ〔キク科〕[or] シベナ
ガムラサキ〔ムラサキ科〕
Vyolette ニオイスミレ〔スミレ科〕
Malowes マロー〔ウズベニアオイ アオイ科〕
Mercury ヤマアイ〔トウダイグサ科〕
Daundelyoñ セイヨウタンポポ〔キク科〕
Avence ダイコンソウ〔バラ科〕
Mynte ミント類〔シソ科〕
Sauge セージ〔シソ科〕
Perceley パセリ〔セリ科〕
Goldes キンセンカ〔キク科〕
Mageroñ マジョラム〔ハナハッカ シソ科〕
Fenell フェンネル〔ウイキョウ セリ科〕
Caraway キャラウェイ〔ヒメウイキョウ セリ
科〕
Rednettyll ネットル〔イラクサ イラクサ科〕 / レッ
ドネットル〔ヒメオドリコソウ シソ科〕

Oculus Christi	ミナトタムラソウ〔シソ科サルビア属〕
Daysys	デイジー〔ヒナギク キク科〕
Chervell	チャービル〔セリ科〕
Lekez	リーキ〔セイヨウネギ ヒガンバナ科〕
Colewortes	コールウォート、コール〔キャベツ類の葉〕
Rapez	セイヨウアブラナ〔アブラナ科〕
Tyme	タイム〔シソ科〕
Cyves	チャイブス〔セイヨウアサツキ ヒガンバナ科〕
Betes	ビート/フダンソウ〔ヒユ科〕
Alysaundr'	アレクサンダース〔セリ科〕
Letyse	レタス〔チシャ キク科〕
Betayñ	ベトニー〔カッコウチョロギ シソ科イヌゴマ属〕
Columbyñ	コロンバイン〔セイヨウオダマキ キンポウゲ科〕
Aña	〔和名未同定〕
Astralogia rotunda	ウマノスズクサの一種〔ウマノスズクサ科〕
Astralogia longa,	ウマノスズクサの一種〔ウマノスズクサ科〕
Basilican	バジル〔シソ科〕
Dylle	ディル〔イノンド セリ科〕
Deteyñ	クレタ・ディタニー〔シソ科〕
Egrymoñ	アグリモニー〔セイヨウキンミズヒキバラ科〕
Hertestong	オオエゾデンダ〔シダ植物 ウラボシ科〕
Radiche	ダイコン〔アブラナ科〕
White pyper	白コショウ〔コショウ科〕
Cabagez	キャベツ〔アブラナ科〕
Sedewale	バレリアン capon ' s tail grass〔カノコソウの一種 オミナエシ科〕
Spynache	ハウレンソウ〔アカザ科〕
Coriaundr'	コリアンダー〔セリ科〕

Foothistyll	〔和名未同定〕
Orage	オラック〔アカザ科ハマアカザ属〕
Cartabus	〔和名未同定〕
Lympons	〔和名未同定〕
Nepte	キャットニップ〔イヌハッカ シソ科〕 ノカブ〔アブラナ科〕
Clarey	クラリーセージ〔オニサルビア シソ科〕
Pacience	タデ科スイバ属

これらのうちソース用のハーブについて

Of the same Herbes for Sauce.

Hertes tonge	オオエゾデンダ〔シダ植物 ウラボシ科〕
Sorell	ギシギシ〔スイバ科〕
Pelytory	ペリトリーオブザウォール〔ヨーロッパヒカゲミズ イラクサ科〕
Pelytory of Spayñ	スパニッシュカモミール(キク科)
Detey	〔和名未同定〕
Vyolette	ニオイスマレ〔スミレ科〕
Perceley	パセリ〔セリ科〕
Mynte	ミント類〔シソ科〕

次に、これらのうち飲用のハーブについて

Also of the same Herbes for the copp. [コップ]

Cost	〔和名未同定〕
Costmary	コストマリー〔バルサムギク <i>Tanacetum balsamita</i> キク科〕
Sauge	セージ〔シソ科〕
Isope	ヒソップ〔ヤナギハッカ シソ科〕
Rose mary	ローズマリー〔シソ科〕
Gyffofr'	クローブピンク〔オランダナデシコ ナデシコ科〕
Goldez	キンセンカ〔キク科〕
Clarey	クラリーセージ〔オニサルビア シソ科〕

Mageroñ	マジュラム (ハナハッカ シソ科)
Rue*	ルー [ヘンルーダ ミカン科]

*Rue は薄いインクで付け加えられている

次に、これらのうちサラダ用のハーブについて

Also of the same Herbes for a Salade.

Buddus of Stanmarche,	アレクサンダース [セリ科] のつぼみ
Vyolette flourez	ニオイスミレの花
Perceley	パセリ [セリ科]
Redmynte	レッドミント / ジンジャーミント [シソ科]
Syves	チャイブス [セイヨウアサツキ ヒガンバナ科]
Cresse of Boleyñ	[和名未同定]
Purselañ	パセリ [セリ科]
Ramsons	ラムソン [クマニラ ヒガンバナ科]
Calamynte	カラミント [シソ科]
Prime Rose buddus	バラのつぼみ
Dayses	デイジー (ヒナギク キク科)
Rapounses	ランピオン [キキョウ科ホタルブクロ属]
Daundelyon	セイヨウタンポポ [キク科]
Rokette	ダムズバイオレット [ハナダイコン アブラナ科] / ルッコラ
Red nettel	ネトル [イラクサ イラクサ科] / レッドネトル [ヒメオドリコソウ シソ科]
Borage flourez	ポリジの花
Croppus of Red Fenell	赤フェネルの茎葉
Selbestryñ	[和名未同定]
Chykynwede	ハコベ [ナデシコ科]

次に、蒸留用のハーブ

Also Herbez to Style.

Endyve	エンダイブ [キクチシャ キク科]
Red Rose	赤バラ
Rose mary	ローズマリー [シソ科]

Dragans	ドラゴンアルム〔サトイモ科〕
Skabiose	マツムシソウ〔マツムシソウ科〕
Ewfrace	アイブライト〔ユーフラジア、ヤクヨウ コゴメグサ ゴマノハグサ科〕
Wermode	ワームウッド〔ニガヨモギ キク科〕
Mogwede	マグワート〔オウシュウヨモギ キク 科〕
Betayñ	ベトニー〔カッコウチョロギ シソ科イ ヌゴマ属〕
Wylde Tansey	ワイルドタンジー〔キク科〕
Sauge	セージ〔シソ科〕
Isope	ヒソップ〔ヤナギハッカ シソ科〕
Ersesmart (<i>Polygonum Hydropiper</i>).	ヤナギタデ〔タデ科〕

次に、香り付けと飾り付けのためのハーブ

Also Herbes fo[r] Savour and beaute.

Gyllofr' gentyle	クローブピンク〔オランダナデシコ〕の 一種〔ナデシコ科〕
Mageroñ gentyle	マジョラムの一種〔シソ科〕
Basyle	バジル〔シソ科〕
Palma Christi	トウゴマ〔トウダイグサ科〕
Stycadose	ラベンダー・ストエカス〔シソ科〕
Meloncez	メロン〔ウリ科〕
Arcachaffe	アンジェリカ〔セイヨウトウキ セリ科 シシウド属〕
Scalaceley	ノハラガラシ〔charlock アブラナ科〕
Philyppendula	シモツケソウ属〔バラ科〕
Popyroya#	ポピーの一種〔ケシ科〕
Germaundr'	ウォールジャーマンダー〔シソ科ニガク サ属〕
Cowsloppus of Jerusalem	ブルモナリア〔ムラサキ科〕
Verveyñ	バーベイン〔クマツヅラ クマツヅラ 科〕
Dyll	ディル〔イノンド セリ科〕
Seynt Mar' Garlek*	ガーリックの一種〔ユリ科〕

*“Seynt Mar' Garlek”は別人により加えられている

次に、庭園に植える根物類

Also Rotys for a gardyn.

Persenepez

パースニップ〔オランダボウフウ セリ科〕

Turnepes

カブ〔アブラナ科〕

Radyche

ダイコン〔アブラナ科〕

Karettes

ニンジン〔セリ科〕

Galyngale

ニオイカヤツリグサ〔カヤツリグサ科〕

Tryngez

〔和名未同定〕

Saffroñ

サフラン〔アヤメ科〕